

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和6年度病虫害発生予察注意報第1号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第1号(赤かび病)を発表したので送付します。

注意報第1号

1 対象作物名：麦類

2 病虫害名：赤かび病

3 発生予想：多

4 予報の根拠

- (1) 本病は、**開花期**に最も感染しやすく、この時期に、降雨が続き、比較的気温が高い(平均気温18度以上)と多発する。
- (2) 4月上～下旬に断続的な降雨があり、4月中旬の気温が高く経過しているため、本病の感染に最適な条件となっている。
- (3) 福岡管区气象台4月18日付け発表の1か月予報では、向こう1か月(4月20日～5月19日)の気温は、暖かい空気に覆われるため高く、降水量は、平年並か多いと予想されている。
- (4) 本年は、麦の防除適期(「5 防除上注意すべき事項(1)」参照)に降雨が続き、計画的な防除が困難な気象条件であった。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 1回目の薬剤防除時期は、小麦および裸麦(開花受粉性)では開花期(出穂後7～10日)、二条大麦(閉花受粉性)では蒴殻が押し出されてくる穂揃期の約10日後(出穂後12～14日)である。2回目の防除は、いずれも1回目の薬剤散布の7～10日後である。**2回目の防除が遅れている場合は、速やかに防除を実施する。**
- (2) **赤かび病に弱い品種(ちくしW2号、ミナミノカオリ、はるか二条)や裸麦**では2回防除を徹底し、その他の品種についても、曇雨天が続いていることから2回目の防除を実施する。
- (3) 液剤による薬剤防除の場合、散布した薬液が乾く前に降雨があると、防除効果が低下する。また粉剤では、散布後6時間以内に降雨があると防除効果が低下するので、薬剤防除を行う際は、

散布後の降雨予想等に注意を払う。

- (4) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期「収穫前日数」、使用回数等）を遵守する。
特に小麦と大麦で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので注意を払うとともに、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。



赤かび病の発生状況（左：小麦、右：大麦）

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①

○X（旧 Twitter）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

X（旧 Twitter）の本アカウント（福岡県農作物病害虫情報）へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②



福岡県病害虫防除所
最新の病害虫発生状況

